

第二種免許に係る 1 日の教習時間の
在り方に関する調査研究

報 告 書

令和 6 年 3 月

はじめに

本報告書は、警察庁交通局運転免許課の委託を受け、「第二種免許に係る1日の教習時間の在り方に関する調査研究」の結果をまとめたものです。

本調査研究を進めるに当たり、研究の趣旨に賛同して各種調査にご協力いただいた方々を始め、実験教習等に参加していただいた方々に対し、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

社会システム株式会社

目 次

第1章 調査研究の概要	1
1-1 調査研究の目的	1
1-2 調査研究の概要	1
1-2-1 実験教習	1
1-2-2 報告書の作成	7
第2章 調査研究結果	7
2-1 実験教習結果	7
2-1-1 実験教習生の属性	7
2-1-2 実験教習生アンケート結果	14
2-1-3 フリッカー検査結果	23
2-1-4 自覚症しらべ集計結果	26
2-2 指導員アンケート結果	29
2-2-1 指導員の属性	29
2-2-2 指導員アンケート結果	30
2-3 まとめ	36
2-3-1 1日の教習時間の上限について	36
2-3-2 休憩時間について	36
第3章 結論	38
3-1 1日の教習時間の上限について	38
3-2 休憩時間について	38
資料編	
資料1 受講者アンケート（第1段階：休憩有り）	資料-1
資料2 受講者アンケート（第1段階：休憩無し）	資料-6
資料3 受講者アンケート（第2段階：休憩有り）	資料-11
資料4 受講者アンケート（第2段階：休憩無し）	資料-16
資料5 指導員アンケート（第1段階：休憩有り）	資料-21
資料6 指導員アンケート（第1段階：休憩無し）	資料-24
資料7 指導員アンケート（第2段階：休憩有り）	資料-27
資料8 指導員アンケート（第2段階：休憩無し）	資料-30
資料9 自覚症しらべ（フリッカー検査）調査表	資料-33

第1章 調査研究の概要

1-1 調査研究の目的

現在、第二種免許に関する指定自動車教習所（以下「教習所」という。）の教習は、教習生の疲労面や技能獲得効率といった教習効果の観点から踏まえ、1日3時限を超えないこととされている。他方で、近年、タクシー等のドライバー不足が深刻化しており、業界団体等からドライバー不足解消のための要望の一つとして、「1日の教習時限数を3時限から4時限に拡大して欲しい」旨の要望がなされている。

このような中、「規制改革推進に関する中間答申」（令和5年12月26日規制改革推進会議決定）において、「警察庁は、普通自動車第二種運転免許を取得するために要する期間を短縮するため、道路交通法施行規則第33条第5項第1号ヨに定める教習を受ける者一人に対する一日における最大の教習時間を三時限から四時限に緩和し、最短五日と一時限で取得可能とする方向で検討する。具体的には、当該緩和による教習効果への影響について、令和5年度に調査研究を実施した上で、その実施結果を踏まえて所要の改正を行う。」こととされた。これを受け、当該教習に用いられる自動車を運転することができる第一種免許を受けている者（以下「普通免許等保有者」という。）が第二種免許に係る技能教習を受けようとする場合に、1日に4時限の技能教習を行ったとしても疲労度や技能獲得効率といった教習効果の観点から問題がないことを確認するために調査研究を実施するものである。

1-2 調査研究の概要

1-2-1 実験教習

(1) 実験概要

現行、普通免許等保有者が第二種免許を取得する場合の技能教習に係る1日の教習時間（以下「上限時限数」という。）については、基本操作及び基本走行（以下「第1段階」という。）並びに応用走行（以下「第2段階」という。）ともに3時限である。なお、第1段階については連続3時限での実施を認めていない。

そこで、上限時限数をそれぞれ1時限ずつ延長し、第1段階及び第2段階ともに1日最大4時限として、教習所において第二種免許に係る技能教習を受講中の者（普通免許等保有者に限る。以下「実験教習生」という。）を対象に実験教習を実施した。

併せて、上限時限数を緩和した場合における必要な休憩時間についても検討するため、3時限目と4時限目の間に休憩時間を1時限入れた場合と休憩を入れずに連続して教習を行う場合でそれぞれ実験教習を実施した。

図1-2-1は、現行の教習と実験教習との教習スケジュールの違いを図示したものである。なお、教習所は必要な教習項目を履行するために教習計画をそれぞれ策定していることから、時限毎の内容は教習所で異なっており、実験教習の項目については各教習所で異なっている。

		第1段階（教習所内）	第2段階（路上）
現行の教習			
実験教習	A群		
	B群		

凡例		
	: 第1段階（基本）1時限（50分）	
		: 第2段階（応用）1時限（50分）
		: 休憩 1時限（50分）
: 疲労度検査（フリッカー検査、自覚症しらべ）実施		

図1-2-1 現行の教習と実験教習との教習スケジュールの違いについて（概念図）

(2) 実施期間

令和6年1月～2月

(3) 実施場所（以下「実験教習所」という。）

- ・平和橋自動車教習所
- ・金町自動車教習所
- ・足立自動車学校
- ・セイコーモータースクール

(4) 実験教習生数

48名

(5) 収集資料

実験教習では、以下の資料を収集した。

①実験教習生アンケート

実験教習生48名に対し、教習時限数の妥当性や教習効果、疲労度等を把握することを目的としてアンケートを実施した。

②指導員アンケート

実験教習所で実験教習生の教習を担当した教習指導員108名に対し、教育者の立場から、実験教習の妥当性を評価し、制度変更に関する問題点や課題点を抽出することを目的としてアンケートを実施した。

③フリッカー検査結果

フリッカー検査とは、疲労度の測定に用いられ、光を高速で点滅させたとき、光のちらつきを目で判断できるか、できないかの境目の周波数を測る検査である。

平常値は35Hz～50Hzとされ、疲労度が高くなると数値が減少する。

実験教習では点滅周波数を高い状態から低い状態に徐々に下げた時に、光のちらつきを目で判別できた最大周波数を測定した。検査は第1段階で4回、第2段階で3回、計7回実施した。実施のタイミングは図1-2-1のとおりである。

なお、測定誤差に配慮し、1回の検査で3回測定し、その平均値をフリッカー値とした。

表1-2-1 検査機器諸元

メーカー名	竹井機器工業株式会社	
製品名	フリッカー値測定器II型(自動型)	
品番	T.K.K.501c	
仕様	フリッカー値表示	LED
	チラツキ視野照度	500Lux±10%
	周辺視野照度	100Lux±40%
	可変範囲	20～60Hz±10%
	フリッカー変化方法	自動型
	電源	本体DC12V ACアダプタ付属
	消費電力	約7W
	寸法	約157(W)×355(D)×135(H)mm
	質量	約1kg



図1-2-2 検査に使用した機器

④自覚症しらべ調査結果

自覚症しらべとは、日本産業衛生学会産業疲労研究会が開発した、作業に伴う疲労状況の経時的変化を捉えることを目的とした指標である。調査項目数が25項目あり、各項目は5点尺度で構成されている。調査回数及び調査のタイミングはフリッカー検査と同一である。

(6) 実験教習風景写真

実験教習の風景写真は以下のとおりである。



平和橋自動車教習所



金町自動車教習所



足立自動車学校



セイコーモータースクール



フリッカー検査実施風景
(平和橋自動車教習所)



アンケート実施風景
(セイコーモータースクール)

1-2-2 報告書の作成

実験教習で収集した実験教習生アンケート、フリッカー検査結果、自覚症しらべ、指導員アンケートを整理・分析し、上限時限数を1時限延長することの妥当性や休憩時間の設定についての検討を行った。

第2章 調査研究結果

2-1 実験教習結果

2-1-1 実験教習生の属性

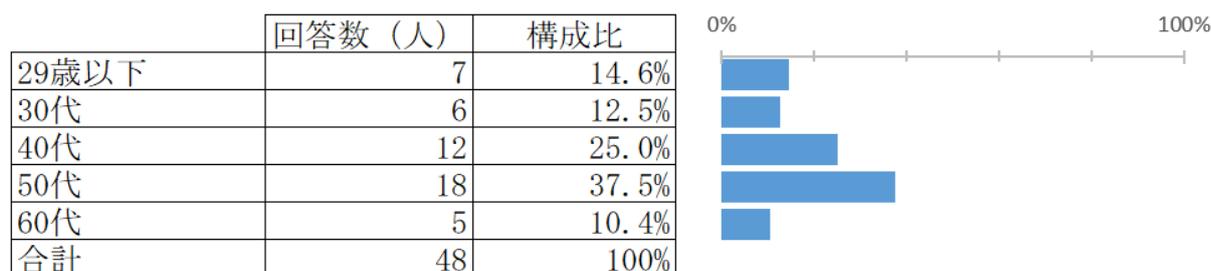
実験教習生の属性は、アンケート項目により取得した。以下では、まず単純集計結果を示し、さらに属性間のクロス集計結果を示す。

(1) 単純集計

①年齢

中年層が多く、40歳以上が全体の約2/3を占める。

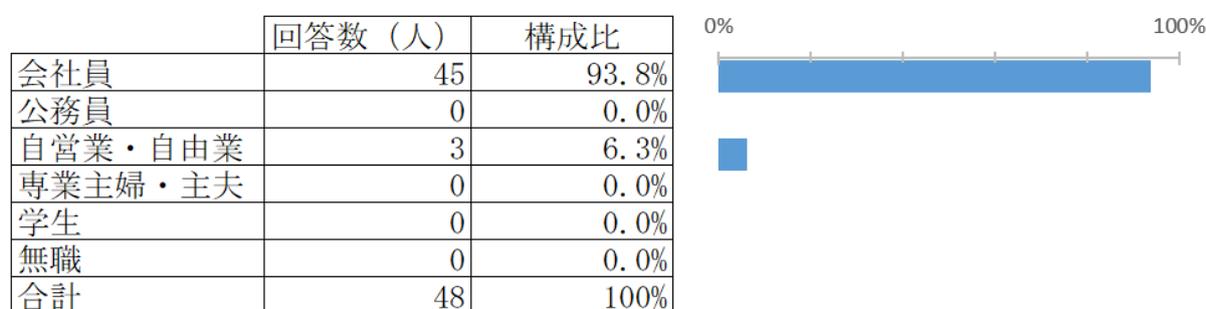
図表2-1-1 年齢



②職業

会社員が多く9割以上を占める。

図表2-1-2 職業

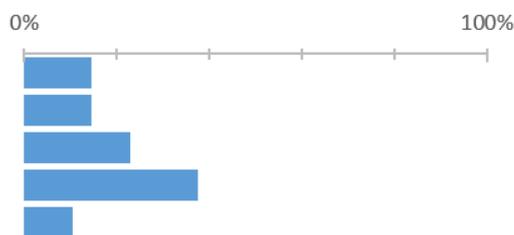


③運転免許保有年数

実験教習生の大半が中年層に偏っていることと第二種免許の教習生であることが影響し、保有年数が30年以上の者が全体の約半数を占める。

図表2-1-3 運転免許保有年数

	回答数 (人)	構成比
10年未満	7	14.6%
10～20年未満	7	14.6%
20～30年未満	11	22.9%
30～40年未満	18	37.5%
40年以上	5	10.4%
合計	48	100%

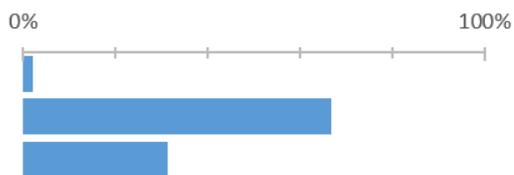


④運転免許の色

ブルーの比率が高く、全体の2/3を占める。

図表2-1-4 運転免許の色

	回答数 (人)	構成比
グリーン	1	2.1%
ブルー	32	66.7%
ゴールド	15	31.3%
合計	48	100%

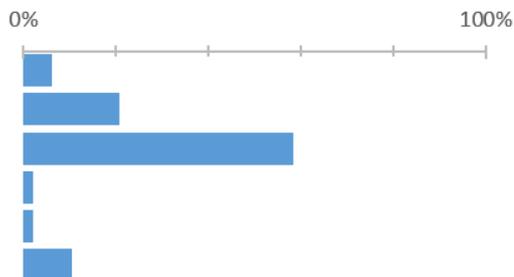


⑤主に運転する車種

普通乗用車が28人 (58.3%) と最も多く、続いて軽乗用車10人 (20.8%) であり、原付が3人 (6.3%)、バス・トラックとその他 (普通自動二輪車) はそれぞれ1人 (2.1%) である。

図表2-1-5 主に運転する車種

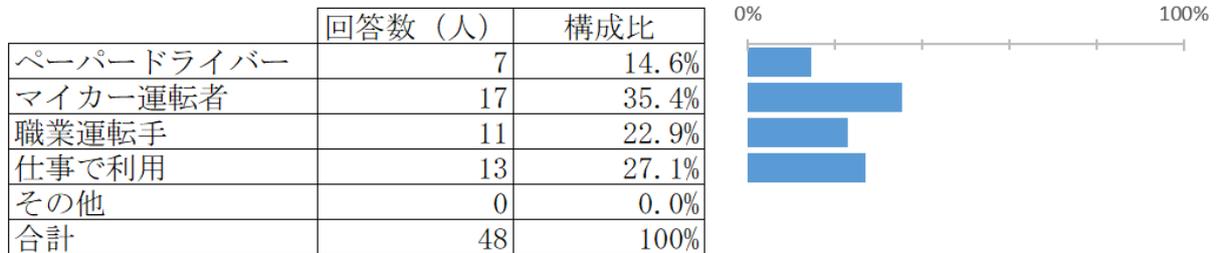
	回答数 (人)	構成比
原付	3	6.3%
軽乗用車	10	20.8%
普通乗用車	28	58.3%
バス・トラック	1	2.1%
その他	1	2.1%
運転しない	5	10.4%
合計	48	100%



⑥ドライバーのタイプ

「マイカー運転者」が17人(35.4%)と最も多く、続いて「仕事で利用」が13人(27.1%)、「職業運転手」が11人(22.9%)である。

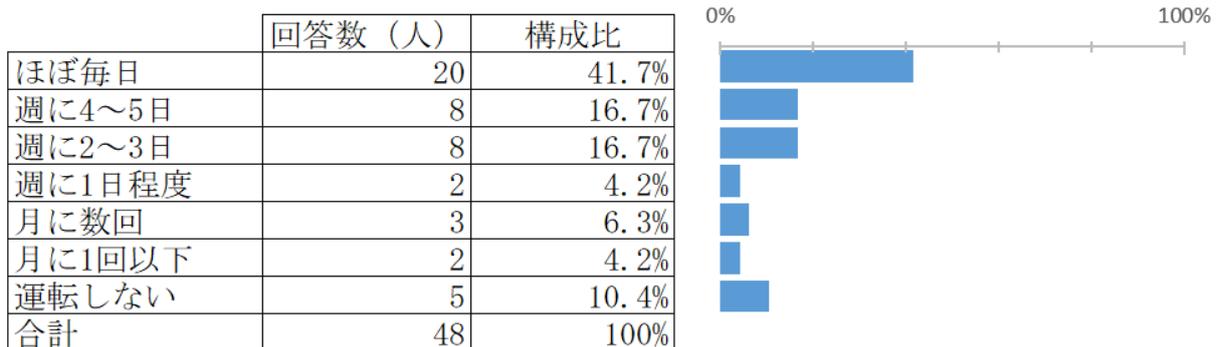
図表2-1-6 ドライバーのタイプ



⑦運転頻度

「ほぼ毎日」が20人(41.7%)と最も多い。続いて「週に4～5日」と「週に2～3日」がそれぞれ8人(16.7%)、「運転しない」が5人(10.4%)である。

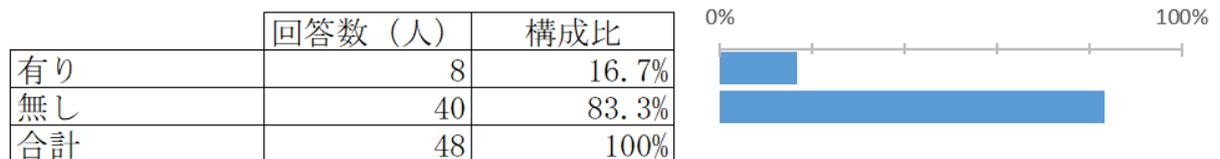
図表2-1-7 運転頻度



⑧交通事故経験の有無

過去5年以内の交通事故経験「有り」は8人(16.7%)であり、多くは交通事故の経験がない。

図表2-1-8 交通事故経験の有無

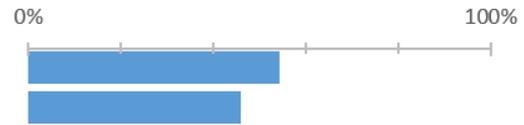


⑨違反の有無

過去5年以内の交通事故経験の結果とは異なり、全体の半数以上の26人（54.2%）が「有り」である。

図表2-1-9 違反の有無

	回答数（人）	構成比
有り	26	54.2%
無し	22	45.8%
合計	48	100%



(2) クロス集計（実験群別の属性構成）

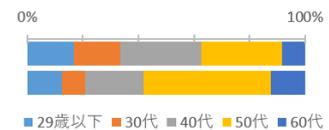
ここでは、実験条件の異なるA、B群の属性の違いをクロス表で検討する。

①年齢別

A群は「40代」と「50代」が最も高く、それぞれ29.2%、B群は「50代」が最も高く45.8%である。

図表2-1-10 実験群と年齢

		29歳以下	30代	40代	50代	60代	合計
構成比	A群	16.7%	16.7%	29.2%	29.2%	8.3%	100%
	B群	12.5%	8.3%	20.8%	45.8%	12.5%	100%
	合計	14.6%	12.5%	25.0%	37.5%	10.4%	100%
		29歳以下	30代	40代	50代	60代	合計
回答数	A群	4	4	7	7	2	24
	B群	3	2	5	11	3	24
	合計	7	6	12	18	5	48



②職業

両群ともに、「会社員」の比率が高い。

図表2-1-11 実験群と職業

		会社員	公務員	自営業・自由業	専業主婦・主夫	学生	無職	合計
構成比	A群	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	B群	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	合計	93.8%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
		会社員	公務員	自営業・自由業	専業主婦・主夫	学生	無職	合計
回答数	A群	21	0	3	0	0	0	24
	B群	24	0	0	0	0	0	24
	合計	45	0	3	0	0	0	48



③運転免許保有年数

両群とも「30年～40年未満」の比率が最も高く、A群7人(29.2%)、B群11人(45.8%)である。

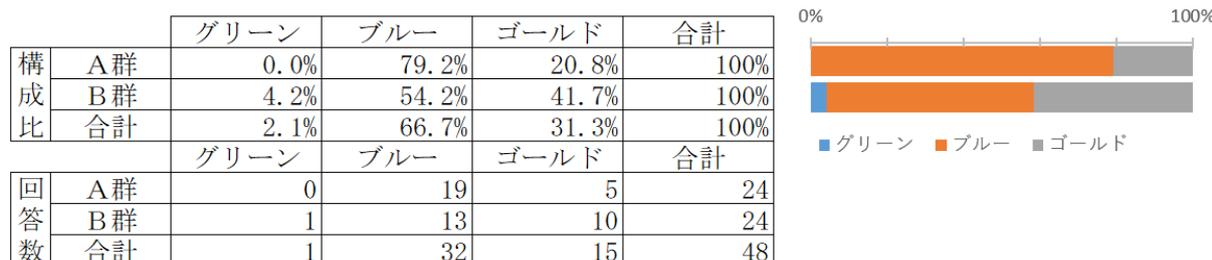
図表2-1-12 実験群と運転免許保有年数



④運転免許の色

両群とも「ブルー」の比率が最も高く、A群19人(79.2%)、B群13人(54.2%)である。

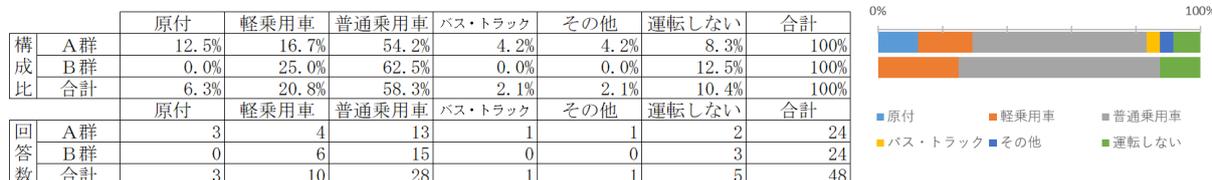
図表2-1-13 実験群と運転免許の色



⑤主に運転する車種

最も多い車種は両群とも「普通乗用車」で5割強であり、次に「軽乗用車」が約2割である。

図表2-1-14 実験群と主に運転する車種



⑥ドライバーのタイプ

両群ともに「マイカー運転者」の比率が最も高く、3割を超えている。また、両群のドライバータイプに大きな差は見られない。

図表2-1-15 実験群とドライバータイプ



⑦運転頻度

両群とも「ほぼ毎日」の比率が最も高く、A群8人(33.3%)、B群12人(50%)である。

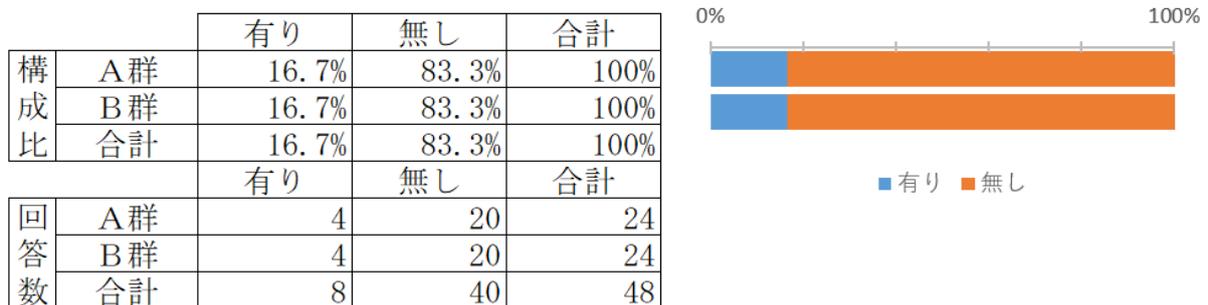
図表2-1-16 実験群と運転頻度



⑧交通事故経験の有無

両群ともに交通事故経験「無し」が20人(83.3%)で大多数を占めている。交通事故経験「有り」は両群ともに4人(16.7%)で両群に差異はない。

図表2-1-17 実験群と交通事故経験の有無

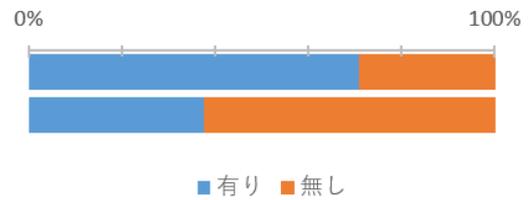


⑨違反の有無

違反「有り」はA群17人（70.8%）、B群9人（37.5%）である。違反「無し」はA群7人（29.2%）、B群15人（62.5%）である。

図表2-1-18 実験群と違反の有無

		有り	無し	合計
構成比	A群	70.8%	29.2%	100%
	B群	37.5%	62.5%	100%
	合計	54.2%	45.8%	100%
		有り	無し	合計
回答数	A群	17	7	24
	B群	9	15	24
	合計	26	22	48



⑩実験群別の属性比較（まとめ）

前述の分析結果から両群の属性に大きな差はないものと判断し、次項以降、実験条件の違いに伴う疲労度やアンケートの結果の違いについての分析を実施する。

2-1-2 実験教習生アンケート結果

(1) 単純集計

① 1日4時限の時限に対する評価

「ちょうど良いと感じた」との回答が第1段階・第2段階ともに約5割を占め、「時限数を減らしてもよい」との回答は1割程度であった。さらに「少なく感じた」、「多いが必要である」も加えれば、1日4時限の技能教習の実施に対しては約9割が肯定的な感想である。

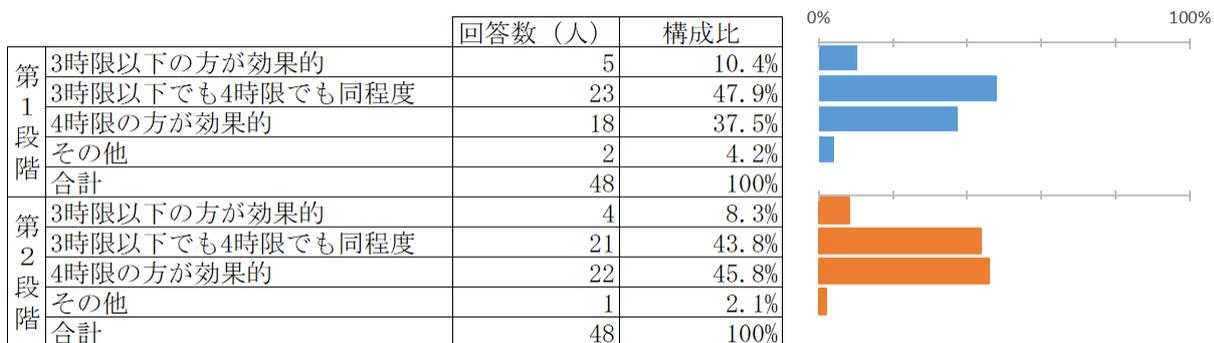
図表2-1-19 1日4時限の時限数に対する評価



② 上限時限数（3時限／4時限）に係る教習効果の比較

教習効果について、「3時限以下でも4時限でも同じ程度」及び「4時限の方が効果的」とする回答が第1段階・第2段階ともに9割近くを占める。教習効果という意味でも4時限教習に対して肯定的な評価である。

図表2-1-20 3時限／4時限の教習効果の比較



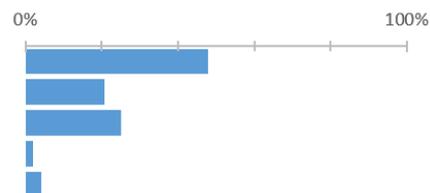
③休憩時間の評価（第1段階）

第1段階の休憩時間については、「4時限連続で行っても良い」旨の回答が47.9%である。なお、実際に4時限連続で教習を行ったB群のみでは、「4時限連続で行っても良い」旨の回答が58.3%と全体に比べて肯定的な評価である。

図表2-1-21 休憩時間に対する評価（第1段階）

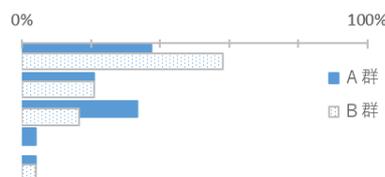
【全体】

	回答数（人）	構成比
4時限連続で行っても良い	23	47.9%
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	10	20.8%
2時限連続で実施後、1時限以上空ける	12	25.0%
1日4時限の教習を行うべきではない	1	2.1%
その他	2	4.2%
合計	48	100%



【実験群別】

	回答者数（人）		構成比	
	A群	B群	A群	B群
4時限連続で行っても良い	9	14	37.5%	58.3%
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	5	5	20.8%	20.8%
2時限連続で実施後、1時限以上空ける	8	4	33.3%	16.7%
1日4時限の教習を行うべきではない	1	0	4.2%	0.0%
その他	1	1	4.2%	4.2%
合計	24	24	100%	100%



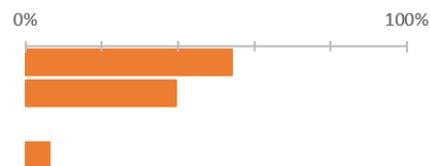
④休憩時間の評価（第2段階）

第2段階の休憩時間については、「4時限連続で行っても良い」旨の回答が54.2%、「1時限空けたほうが良い」旨の回答が39.6%である。また、実際に4時限連続で教習を行ったB群のみでは、「4時限連続で行っても良い」旨の回答が66.7%と、第1段階同様に全体に比べて肯定的な評価である。

図表2-1-22 休憩時間に対する評価（第2段階）

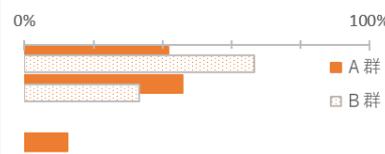
【全体】

	回答数（人）	構成比
4時限連続で行っても良い	26	54.2%
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	19	39.6%
1日4時限の教習を行うべきではない	0	0.0%
その他	3	6.3%
合計	48	100%



【実験群別】

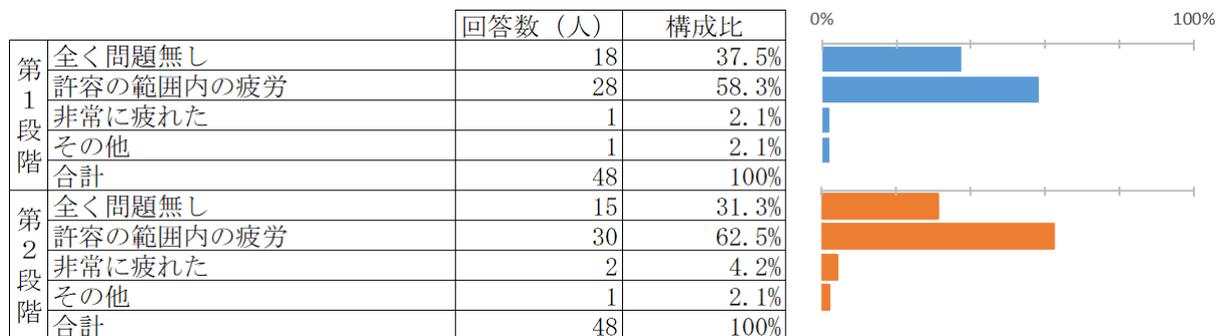
	回答者数（人）		構成比	
	A群	B群	A群	B群
4時限連続で行っても良い	10	16	41.7%	66.7%
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	11	8	45.8%	33.3%
1日4時限の教習を行うべきではない	0	0	0.0%	0.0%
その他	3	0	12.5%	0.0%
合計	24	24	100%	100%



⑤技能教習を1日4時限受講した場合の疲労度

「多少疲れを感じたが、許容範囲内」、「全く問題ない」とする回答を合算すると第1段階・第2段階ともに9割を超える。ただし、第1段階・第2段階ともに1人(2.1%)は非常に疲れた」と回答した。

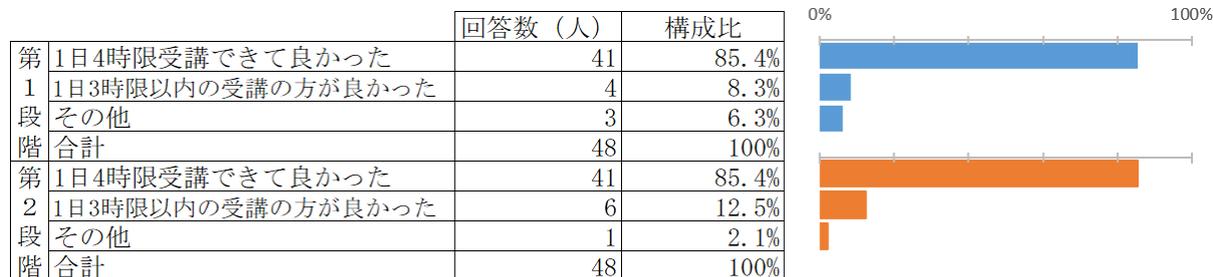
図表2-1-23 疲労感



⑥技能教習を1日4時限受講した場合の感想

「1日4時限受講できて良かった」旨の回答が8割を超えている。

図表2-1-24 受講後の感想

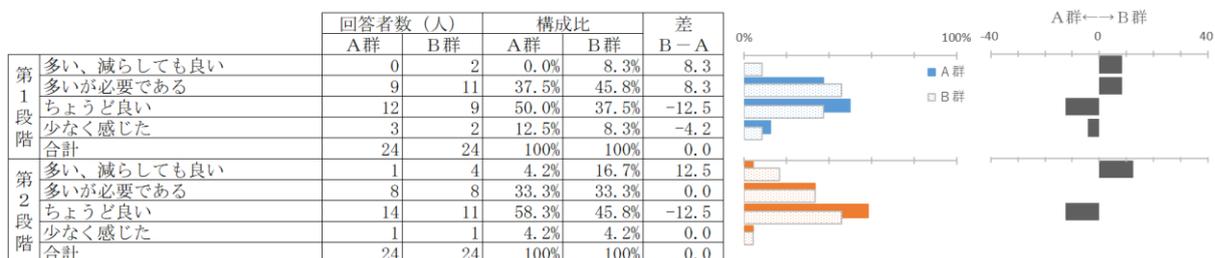


(2) 実験教習に対する評価 実験群間での比較

① 1日4時限の時限数に対する評価

以下は、時限数に対する評価を、実験群（A群）間で比較した結果で、表中の差は、「B群－A群」の値である。また、比較図表の左側の図は、回答比率を棒グラフで比較したもの、右側の図は2群間の差（B－A）を作図したもので、右側に棒グラフが表れていればB群、左側に表れていればA群の比率が高いことを示す。図表によれば、B群は「ちょうど良いと感じた」、「少なく感じた」の2つの回答併せて9割を超えており、A群と比較して時限数に関して肯定的な感想が多い。

図表2-1-25 1日4時限の時限数に対する評価と実験群間比較



② 上限時限数（3時限／4時限）に係る教習効果の比較

全体的には、両群の比率には大きな差は見られないが、第2段階においてはB群の方が「3時限でも4時限でも同じ」とする回答がA群よりも多く、その差は10ポイント以上である。つまり、4時限の教習に対する評価はB群の方が高い。

図表2-1-26 3時限／4時限の教習効果に対する評価と実験群間比較



● その他の自由回答

< A群 >

- ・ (第1段階) ペーパードライバーなのでまだ練習したい。
- ・ (第2段階) 人によると思う。私はもっと練習したい。

< B群 >

- ・ (第1段階) 4時限の方が教習効果は高いが疲れやすくなる。

③休憩時間の評価（第1段階）

休憩時間については、A群1時限、B群は休憩なしとしたものであるが、両群とも「4時限連続で行っても良い」旨の回答が最も高く、A群37.5%（9人）、B群58.3%（14人）であり、B群の方が20ポイント以上高い。つまり、4時限連続の教習に対する評価はB群の方が高い。

ただし、A群、B群ともに「3時限連続で実施後、1時限以上空けた方が良い」旨の回答が同程度おり、「2時限連続で実施後、1時限以上空けた方が良い」旨の回答についてはA群の方が15ポイント以上高い。

図表2-1-27 休憩時間の評価（第1段階）に関する実験群間比較



●その他の自由回答

< A群 >

- ・連続でもいいが、昼ごはんの時間は1時間ほしい。

< B群 >

- ・20～30分程度は必要かと思う。

④休憩時間の評価（第2段階）

休憩時間については、A群1時限、B群は休憩なしとしたものであるが、A群では「4時限連続で行っても良い」旨の回答が41.7%（10人）であるが、B群では66.7%（16人）であり、B群の方が25ポイント高い。つまり、4時限連続の教習に対する評価は第2段階においてもB群の方が高い。

また、A群、B群ともに「1日4時限の教習を行うべきではない」旨の回答はなかった。

図表2-1-28 休憩時間の評価（第2段階）に関する実験群間比較



●その他の自由回答

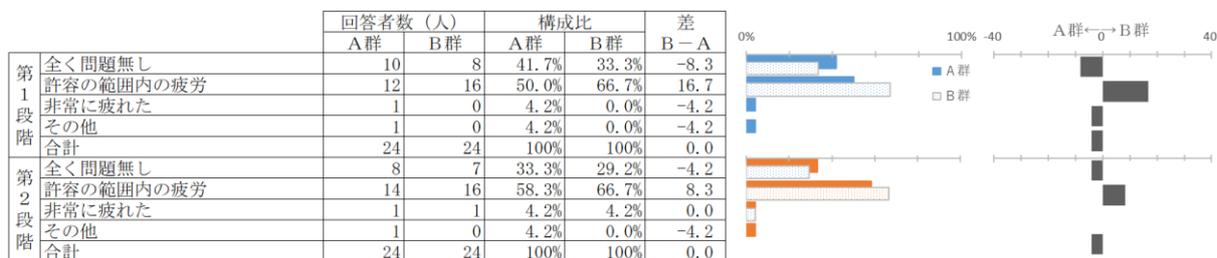
< A群 >

- ・2時限連続、1時限空けて2時限連続が良い。（3人同回答）

⑤技能教習を1日4時限受講した場合の疲労感

第1段階・第2段階ともに全体的にそれ程大きな差は見られないが、「多少疲れを感じたが、許容範囲内」旨の回答はB群が高い。

図表2-1-29 疲労感に関する実験群間比較



< A群 >

- ・(第1段階) ペーパードライバーなので緊張した。
- ・(第2段階) 次の日に疲れを感じた。

⑥技能教習を1日4時限受講した場合の感想

両群、第1段階・第2段階ともに「4時限受講できて良かった」の回答が8割を超えており、4時限での実施に肯定的な感想が多い。ただし、「3時限以内が良い」との回答も1割程度含まれている。

図表2-1-30 受講後の感想に関する実験群間比較



●その他の自由回答

< A群 >

- ・(第1段階) ケースバイケース。
- ・(第1段階) 4時限連続しないほうがよい。
- ・(第2段階) 自分のためになるので良い。

< B群 >

- ・(第1段階) 連続4時限は体がきつい。

(3) 実験教習に対する評価 年齢層比較

データ数が少なかったため、年齢層は49歳以下と50歳以上の2群に分けた。

① 1日4時限の時限数に対する評価

以下に、時限数に対する評価を、年齢層間で比較した結果を示す。表中の差は、「50歳以上-49歳以下」の値である。また、比較図表の左側の図は、回答比率を棒グラフで比較したもの、右側の図は2群間の差（50歳以上-49歳以下）を作図したもので、右側に棒グラフが表れていれば50歳以上、左側に表れていれば49歳以下の比率が高いことを示す。図表によれば、時限数に対する評価は第1段階では年齢層によって大きな差は見られなかった。第2段階では年齢層による差が見られたが、「多い、減らしても良い」と「少ないと感じた」との回答については大きな差は見られなかった。

図表2-1-31 1日4時限の時限数に対する評価に関する年齢層間比較



② 上限時限数（3時限／4時限）に係る教習効果の比較

教習効果に関しても第1段階・第2段階ともに年齢層によって大きな差は見られない。

図表2-1-32 3時限／4時限の教習効果に関する年齢層間比較

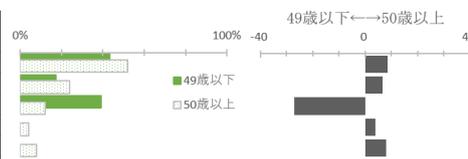


③休憩時間の評価（第1段階）

休憩時間の評価については、両群とも「4時限連続で行っても良い」の比率が最も高く、49歳以下では43.5%、50歳以上では52.0%である。

図表2-1-33 休憩時間の評価（第1段階）に関する年齢層間比較

	回答者数（人）		構成比		差 50歳以上-49歳以下
	49歳以下	50歳以上	49歳以下	50歳以上	
4時限連続で行っても良い	10	13	43.5%	52.0%	8.5
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	4	6	17.4%	24.0%	6.6
2時限連続で実施後、1時限以上空ける	9	3	39.1%	12.0%	-27.1
1日4時限の教習を行うべきではない	0	1	0.0%	4.0%	4.0
その他	0	2	0.0%	8.0%	8.0
合計	23	25	100%	100%	0.0

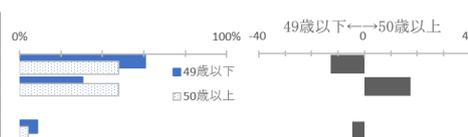


④休憩時間の評価（第2段階）

第2段階については、両群の間にほとんど差は認められない。そして、第1段階と同様、「4時限連続で行っても良い」の比率が高く、49歳以下では6割を超えている。

図表2-1-34 休憩時間の評価（第2段階）に関する年齢層間比較

	回答者数（人）		構成比		差 50歳以上-49歳以下
	49歳以下	50歳以上	49歳以下	50歳以上	
4時限連続で行っても良い	14	12	60.9%	48.0%	-12.9
3時限連続で実施後、1時限以上空ける	7	12	30.4%	48.0%	17.6
1日4時限の教習を行うべきではない	0	0	0.0%	0.0%	0.0
その他	2	1	8.7%	4.0%	-4.7
合計	23	25	100%	100%	0.0

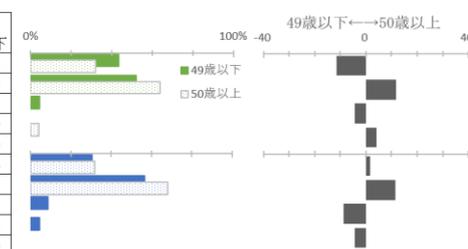


⑤技能教習を1日4時限受講した場合の疲労感

年齢層によって疲労感に若干の差が見られるが、両群とも「全く問題ない」と「多少疲れを感じたが、疲労は許容の範囲内」とする回答が9割程度占めており、50歳以上の第2段階では当該回答のみとなっている。

図表2-1-35 疲労感に関する年齢層間比較

	回答者数（人）		構成比		差 50歳以上-49歳以下	
	49歳以下	50歳以上	49歳以下	50歳以上		
第1段階	全く問題無し	10	8	43.5%	32.0%	-11.5
	許容の範囲内の疲労	12	16	52.2%	64.0%	11.8
	非常に疲れた	1	0	4.3%	0.0%	-4.3
	その他	0	1	0.0%	4.0%	4.0
	合計	23	25	100%	100%	0.0
第2段階	全く問題無し	7	8	30.4%	32.0%	1.6
	許容の範囲内の疲労	13	17	56.5%	68.0%	11.5
	非常に疲れた	2	0	8.7%	0.0%	-8.7
	その他	1	0	4.3%	0.0%	-4.3
合計	23	25	100%	100%	0.0	

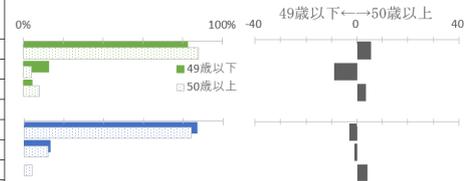


⑥技能教習を1日4時限受講した場合の感想

両群、第1段階・第2段階ともに「1日4時限受講できて良かった」旨の比率が最も高く8割以上を占めており、4時限での実施に肯定的な感想が多い。

図表2-1-36 受講後の感想に関する年齢層間比較

	回答者数(人)		構成比		差 50歳以上-49歳以下
	49歳以下	50歳以上	49歳以下	50歳以上	
第1段階					
1日4時限受講できて良かった	19	22	82.6%	88.0%	5.4
1日3時限以内の受講の方が良かった	3	1	13.0%	4.0%	-9.0
その他	1	2	4.3%	8.0%	3.7
合計	23	25	100%	100%	0.0
第2段階					
1日4時限受講できて良かった	20	21	87.0%	84.0%	-3.0
1日3時限以内の受講の方が良かった	3	3	13.0%	12.0%	-1.0
その他	0	1	0.0%	4.0%	4.0
合計	23	25	100%	100%	0.0



2-1-3 フリッカー検査結果

フリッカー値の測定は第1段階で4回、第2段階で3回の計7回実施している。測定のタイミングは、第1段階では教習の開始前（測定1）、3時限目の開始前（測定2）、4時限目の開始前（測定3）、教習終了後（測定4）で、第2段階では教習の開始前（測定1）、4時限目の開始前（測定2）、教習終了後（測定3）である。また、1測定ごとに3回測定を行っており、以下ではこの3つの測定値の平均値を用いて分析を行う。なお、以下では3つの測定値の平均値をフリッカー値として議論する。

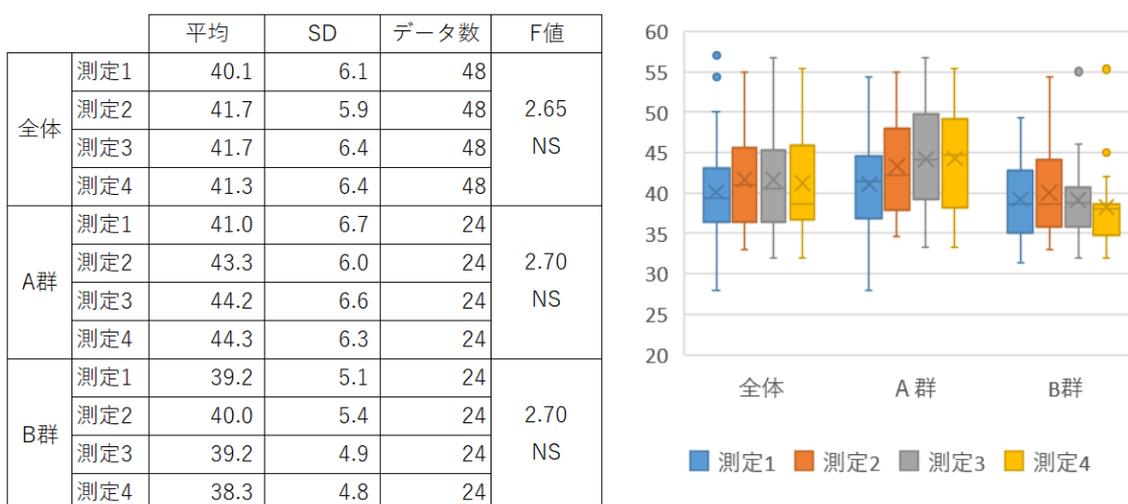
(1) 測定時期によるフリッカー値の変化

第1段階と第2段階で異なった変動傾向を示している。以下、実施段階ごとにその傾向を述べる。

①第1段階

測定1から測定4まであまり大きな変化は見られなかった。この傾向は、全体でも実験群別でも同様であるが、データ散布の幅はB群よりA群の方が広い。

図表2-1-37 フリッカー値の測定時期による変化（第1段階）



注1：この図は箱ひげ図と呼ばれるもので、長方形の中の横棒が中央値、箱形の×印が平均値である。長方形の下端は25パーセンタイル値、上端は75パーセンタイル値を示す。箱の上下端から箱の高さ（25パーセンタイル値から75パーセンタイル値まで）の1.5倍の範囲内の最小値と最大値を垂直線の広がり（ひげ）で表示している。正規分布であるとすれば、「ひげ」の範囲内に99.3%が分布する計算になる。●印は「ひげ」の外側の値（はずれ値）である。

注2：表中のSDとは、Standard Deviation（標準偏差）の略である。

注3：表中のF値とは、平均値の分散の誤差分散に対する比のことである。ここでは1要因の分散分析を実施しており、その値が大きい程平均値のばらつきが大きいこと、つまり測定時期による差違が大きいことを意味する。

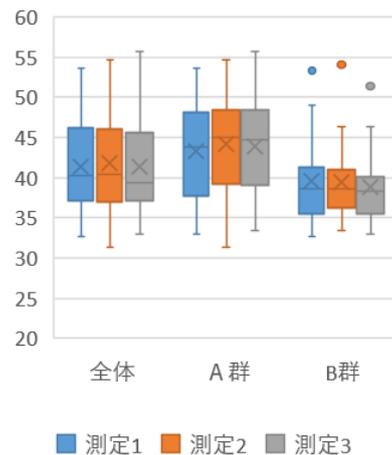
注4：表中のNSとは、Not Significant（有意ではない）の略である。

②第2段階

全体及びA群を見ると、測定1から測定2でやや増加し、測定3でやや減少が見られた。B群については測定1から測定2では変化は見られず、測定3では減少した。ただし、全体としては変動数が第1段階より小さい。この傾向は、全体でも実験群別でも同様である。

図表2-1-38 フリッカー値の測定時期による変化（第2段階）

		平均	SD	データ数	F値
全体	測定1	41.4	5.9	48	3.06 NS
	測定2	41.8	5.9	48	
	測定3	41.3	5.8	48	
A群	測定1	43.2	6.0	24	3.13 NS
	測定2	44.2	6.2	24	
	測定3	43.8	6.2	24	
B群	測定1	39.5	5.0	24	3.13 NS
	測定2	39.4	4.4	24	
	測定3	38.8	4.1	24	



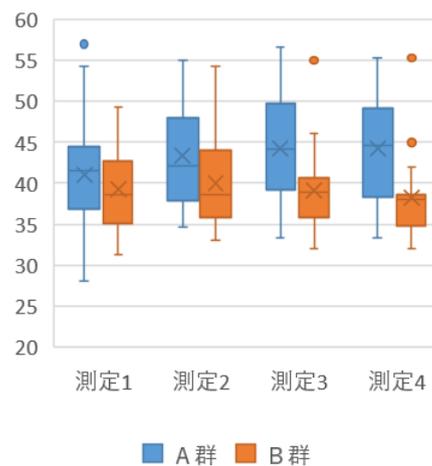
(2) フリッカー値の実験群間比較

①第1段階

全ての測定でA群がB群を上回っており、散布の幅も広い。

図表2-1-39 フリッカー値の実験群間の比較（第1段階）

		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A群	41.0	6.7	24	2.07
	B群	39.2	5.1	24	
測定2	A群	43.3	6.0	24	2.07
	B群	40.0	5.4	24	
測定3	A群	44.2	6.6	24	2.07
	B群	39.2	4.9	24	
測定4	A群	44.3	6.3	24	2.07
	B群	38.3	4.8	24	



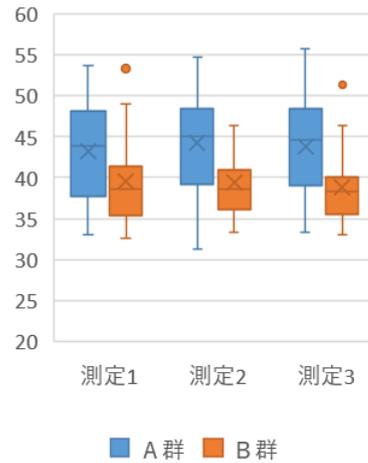
注5：t 値とは、2群間の平均値の差の検定に用いる値である。

②第2段階

第1段階同様、全ての測定でA群がB群を上回っており、散布の幅も広い。

図表2-1-40 フリッカー値の実験群間の比較（第2段階）

		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A群	43.2	6.0	24	2.07
	B群	39.5	5.0	24	NS
測定2	A群	44.2	6.2	24	2.07
	B群	39.4	4.4	24	NS
測定3	A群	43.8	6.2	24	2.07
	B群	38.8	4.1	24	NS



2-1-4 自覚症しらべ集計結果

自覚症しらべの測定回数及び測定のタイミングはフリッカー検査と同様である。疲労自覚症の項目数は25項目であり、各項目が5点尺度で測定されているが、ここでは以下の2つの尺度得点を算出し、分析に用いた。

①合計点：25項目の総合計点である。最小が25点、最大が125点である。

②該当項目数：項目に対する回答が2点以上の場合にその症状があるとしてその個数を求めた指標である。最小値は0で最大値は25である。

これらの合成得点は、値が大きい程、疲労度が高いことを意味する。

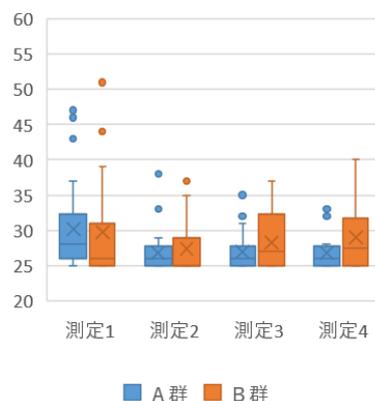
(1) 疲労度合計点による実験群（A B群）間の比較

第1段階については、測定1はA群の方が平均値は高いが、測定2～4はB群の方が平均値は高い。第2段階については、すべての測定においてB群の方が平均値は高い。

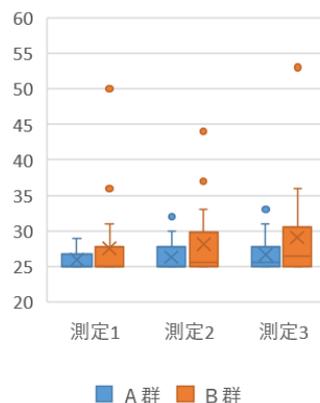
さらに、分布の違いとしては、B群では値の大きい方に分布の裾が伸びる傾向がある。この傾向は第1段階、第2段階を通して同じであり、B群の一部には、疲労度の高い実験教習生が含まれている可能性がある。アンケートによる評価では、「非常に疲れた」と回答した者が第1段階のA群で1名、第2段階のB群で1名いた。

図表2-1-41 疲労度合計点分布の実験群間比較

第1段階		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A 群	30.2	6.5	24	2.07
	B 群	29.8	6.8	24	NS
測定2	A 群	26.8	3.0	24	2.07
	B 群	27.4	3.5	24	NS
測定3	A 群	27.0	2.8	24	2.07
	B 群	28.3	3.8	24	NS
測定4	A 群	26.8	2.5	24	2.07
	B 群	29.0	4.6	24	NS



第2段階		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A 群	26.0	1.4	24	2.07
	B 群	27.5	5.4	24	NS
測定2	A 群	26.3	1.8	24	2.07
	B 群	28.2	4.9	24	NS
測定3	A 群	26.7	2.4	24	2.07
	B 群	29.1	6.7	24	NS



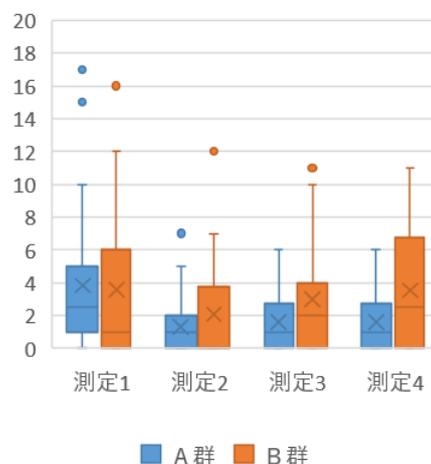
(2) 該当項目数による実験群 (A B群) 間の比較

測定1はA群の方が平均値は高いが、測定2～4はB群の方が平均値は高く、合計点と同様の傾向である。第2段階については、全ての測定でB群の方が平均値は高い。

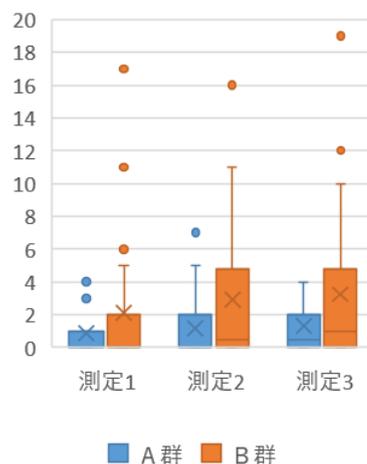
さらに、分布の違いは、B群では値の大きい方向に分布の裾が伸びる傾向があることである。この傾向は第1段階、第2段階を通して同じであるが、裾は第2段階の方が長くなっている。つまり、B群の一部には、疲労度の高い実験教習生が含まれている可能性がある。また、概ね両群とも測定の進行とともに、疲労度が高くなる傾向がある。このような傾向は合計点でも見られたが、該当項目数ではより明確に表れている。

図表2-1-42 疲労度該当項目数分布の実験群間比較

第1段階		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A群	3.8	4.6	24	2.07
	B群	3.6	4.4	24	
測定2	A群	1.3	1.7	24	2.07
	B群	2.1	3.0	24	
測定3	A群	1.6	2.0	24	2.07
	B群	3.0	3.4	24	
測定4	A群	1.6	2.0	24	2.07
	B群	3.5	3.9	24	



第2段階		平均	SD	データ数	t 値
測定1	A群	0.9	1.3	24	2.07
	B群	2.1	4.0	24	
測定2	A群	1.2	1.8	24	2.07
	B群	2.9	4.4	24	
測定3	A群	1.3	2.0	24	2.07
	B群	3.3	4.8	24	



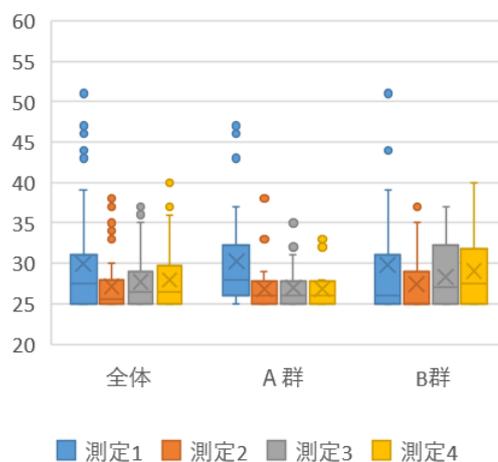
(3) 疲労自覚症合計の測定回による変化

①第1段階

A群の平均値は測定2と4で減少し、測定3で増加する。B群の平均値は測定1～2で減少した後、測定3～4で増加する。時間進行に伴う変化は、単調ではなく、群によっても異なる。

図表2-1-43 疲労度合計点分布の測定間比較（第1段階）

第1段階		平均	SD	データ数	F値
全体	測定1	30.0	6.7	48	2.65 NS
	測定2	27.1	3.2	48	
	測定3	27.7	3.4	48	
	測定4	27.9	3.9	48	
A群	測定1	30.2	6.5	24	2.70 NS
	測定2	26.8	3.0	24	
	測定3	27.0	2.8	24	
	測定4	26.8	2.5	24	
B群	測定1	29.8	6.8	24	2.70
	測定2	27.4	3.5	24	
	測定3	28.3	3.8	24	
	測定4	29.0	4.6	24	

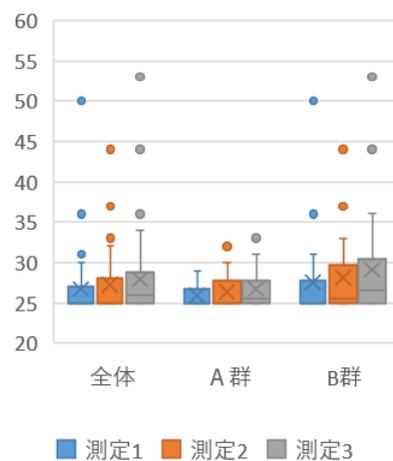


②第2段階

A群・B群ともに平均値に減少傾向はなく、測定1～3で増加する。

図表2-1-44 疲労度合計点分布の測定間比較（第2段階）

第2段階		平均	SD	データ数	F値
全体	測定1	26.7	4.0	48	3.06
	測定2	27.2	3.8	48	
	測定3	27.9	5.2	48	
A群	測定1	26.0	1.4	24	3.13
	測定2	26.3	1.8	24	
	測定3	26.7	2.4	24	
B群	測定1	27.5	5.4	24	3.13
	測定2	28.2	4.9	24	
	測定3	29.1	6.7	24	



2-2 指導員アンケート結果

2-2-1 指導員の属性

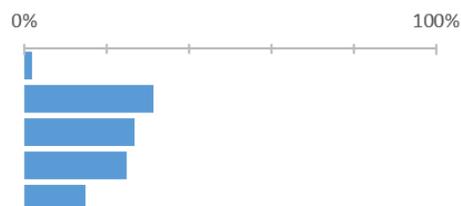
以下に単純集計結果を示す。

(1) 年齢

「20歳代」2人、「30歳代」34人、「40歳代」29人、「50歳代」27人、「60歳代」16人である。

図表2-2-1 年齢

	回答数 (人)	構成比
20歳代	2	1.9%
30歳代	34	31.5%
40歳代	29	26.9%
50歳代	27	25.0%
60歳代	16	14.8%
合計	108	100%

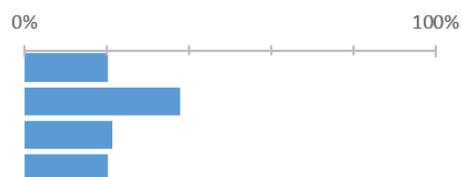


(2) 指導員経験年数

「10年未満」22人、「10～19年」41人、「20～29年」23人、「30年以上」22人である。

図表2-2-2 指導員経験年数

	回答数 (人)	構成比
10年未満	22	20.4%
10～19年	41	38.0%
20～29年	23	21.3%
30年以上	22	20.4%
合計	108	100%

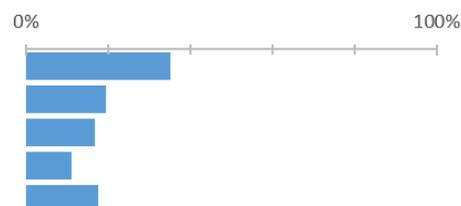


(3) 普通第二種教習経験年数

「5年未満」が最も多く38人である。他は大きな差はない。

図表2-2-3 普通第二種教習経験年数

	回答数 (人)	構成比
5年未満	38	35.2%
5年～10年未満	21	19.4%
10年～15年未満	18	16.7%
15年～20年未満	12	11.1%
20年以上	19	17.6%
合計	108	100%



(4) 1か月あたりの普通第二種教習の担当時間
「月50～100時間未満」が63人と約6割を占める。

図表2-2-4 1か月あたりの普通第二種教習の担当時間



2-2-2 指導員アンケート結果

(1) 第1段階の3時限目の履修成立の判断

「履修できている (押印等できる)」が100.0%である。

図表2-2-5 3時限目の履修成立の判断 (第1段階)



※金町自動車教習所では、第1段階の3時限目と4時限目で指導した教習指導員が異なっていることから、3時限目に指導した教習指導員のアンケート結果を反映した。

(2) 第1段階の4時限目の履修成立の判断

「履修できている (押印等できる)」が100.0%である。

図表2-2-6 4時限目の履修成立の判断 (第1段階)



※金町自動車教習所では、第1段階の3時限目と4時限目で指導した教習指導員が異なっていることから、4時限目に指導した教習指導員のアンケート結果を反映した。

(3) 第2段階の4時限目の履修成立の判断

「履修できている (押印等できる)」が100.0%である。

図表2-2-7 4時限目の履修成立の判断 (第2段階)



(4) 上限時限数（3時限／4時限）に係る教習効果の比較

「3時限以下が効果的」と評価したのは4人と少なく、「3時限以下でも4時限でも同じ」が74人、「4時限の方が効果的」が17人と計91人が1日4時限の教習に肯定的な評価である。

図表2-2-8 3時限／4時限の教習効果の比較について



※金町自動車教習所では、第1段階の3時限目と4時限目で指導した教習指導員が異なっていることから、4時限目に指導した教習指導員のアンケート結果を反映した。

●その他の自由回答

- ・(第1段階) 日頃から運転されている方へは効果があると思います。

(5) 技能教習を1日4時限とすることの是非（実験教習の感想）

「4時限実施しても良い」とする回答が98人と大多数である。

図表2-2-9 技能教習の4時限に対する評価



※金町自動車教習所では、第1段階の3時限目と4時限目で指導した教習指導員が異なっていることから、4時限目に指導した教習指導員のアンケート結果を反映した。

●回答の理由（自由回答）

自由回答を回答の理由別に分類した。(表2-2-1)

表2-2-1 技能教習を1日4時限とすることの是非（回答の理由）

第1段階

4時限実施しても良い	3時限、4時限で教習効果が変わりないと感じました。特に第1段階は一種教習と同じコースでの練習ですので疲労感は少なく4時限実施しても問題ないと思います。
	二種教習生は既に一種免許を取得しており、運転操作等のベースが出来ており、一種免許志望者とは違う。2～3時間に1度運転離脱を行う必要はないと思います。教習効果の面で捉えても、1日4時限実施しても差異は無かったため。
	教習効果が変わらないと思うから。
	3時限でも4時限でも認知、判断、操作に大きな違いはないように感じたため。
	仕事では連続で運転するので、3時限も4時限も変わらないと思う。
	運転経験があり、一種の教習と同じコースを使用しての練習では疲労はあまりないのではないかと思います。
	教習生の履修状況や疲労度等の変化は感じられなかった。
	普段から運転を仕事としている人であれば4時限実施でも問題はないと思われます。（疲れている様子は見受けられませんでした。）教習生、学科が心配な点があります（学科試験）。
	路上と違い場内では交通状況等大きな変化はないのでさほど疲れもなさそうなので4時限でも良いと思う。
	教習生本人が上手く出来なかった点を理解した中で、すぐに修正することが出来たため。忘れないうちに反復し身に付いていったように思う。
	前回の内容を忘れる前に次の内容に移行出来るため。教習所に通う日数が短縮出来るため。
	お客様は早く卒業できるので良いと思います。ただ、学科、効果測定の進みが遅れないか心配です。
	早く卒業しタクシー業務につけるため。
	教習生にあまり負担だと思わないし、短期間で卒業できるので良いと思う。
	教習日数の短縮になるし、短期で取得できるのはいいと思う。普段から日常的に運転していれば3時限も4時限もあまり影響ないと思う。
	4時限目でも本人(教習生)が運転に心配な内容について質問してきましたし、運転に集中できていたと思います。学科の点数も今の時期では心配ない点数が取れていると思います。
技量的には問題ないと思います。学科に若干の不安を感じます。	
現場に行ったら1日に長時間運転するようになるので慣れるという意味においても4時限実施しても良いと思う。	
業務についたら4時限で終われないから。	

	1日に運転する時間と考えれば4時限はたいした事はないと思う。出かければ1日4時間以上運転するし、仕事でしていた方もいると思う。
	普段から運転している方にとっては問題ないと思います。そうでない方の事を考えると、空き時間を設けた方がいいと思いました。
	普段運転している人であれば問題なくこなせると考えられる。ただし4時限連続は負担が大きい。
	1日4時限でも良いと思いますが路上やシミュレーター教習が続く場合は疲労度を考えると現行通りの3時限の方が良いと思います。
	4時限目は本人(教習生)に疲れが若干見受けられましたが、大丈夫との返答がありました。短時間での学科の修得状況に不安があります。
	年齢によっては大分疲れているように感じられました。第1段階は4時限連続ではなく、どこかで1時限空けた方がいろんな年齢層に対応できると思います。
	1日4時限実施しても良いと思いますが、お客様の緊張、疲労が心配です。
	実施可能とは思いますが、人によっては疲れさせてしまったりして、効果が半減してしまう事もあるかと。
3時限以内が良い	4時限目になるとお客様に疲労が目立ち始め前時限よりミスが多くなったので、3時限以内の方が良いと思います。
	4時限目になるとお客様の集中力が欠け、疲れが見えてきたので、3時限以内の方が良いと思います。
	教習効果は個人差があり、教習効果がみとめられない場合は復習として教習をのばした方が良いと思います。

第2段階

4時限実施しても良い	4時限連続で教習しても、運転に大きな影響はなかったので問題ないと思います。
	3時限も4時限も変わらない。
	教習効果が変わらないと思うから。
	1時限ぐらいなら教習効果は変わらないと思う。
	日頃運転をしているので問題はないと思います。
	4時限実施しても疲労感はないと思います。
	集中して練習ができるため。
	シミュレーターで気分が悪くならなければ反復修正が出来るので4時限実施しても良いと思う。
	思ったよりも疲れていないようで早期に欠点の修正ができるため。ただし、シミュレーターに弱い方がいるのでシミュレーターを減らすことを検討してほしい。
	4時限実施した方が、修了が早くなるので良いと思います。

	教習の効率化や回転率の向上が見込めるのではないかと感じた。
	教える側と教わる側の効率化。
	日数を減らす方が教習生の負担が少なくなると思うため。
	運転に集中出来ており、コースも間違えることなくゴール出来、さらに余裕がありました。
	質問に対しても、ただちに答える余裕がみられる。
	教習効果に影響なく履修できています。短い日数で教習を終了することに賛成です。技能に関することは問題ないと思います。
	第2段階はシミュレーター教習が多いので、4時限実施でも問題はないと思います。
	普段から運転しているようで1日4時限実施し短い日数で二種免許を取得しても大丈夫だと思います。学科の効果測定回数はそれなりに多く受けていますが点数が低いのが心配です。
	技能に関しては問題ないと思います。学科の理解度に若干時間がかかります。
	技能は特に問題ないと思います。学科試験（短期間）に不安があります。
	業務についたら4時間以上運転するから。
	4時限で良いと思いますが、中には運転が「雑」になる人がいる。疲れからではなく、慣れからくると感じました。自信過剰から雑な運転が見受けられ、今後の指導に注意を払います。
	第2段階は実施しても良いと思いますが、シミュレーターの絡みもあるので、教習計画によっては、1時間空けた方が良い時もあるのではと思いました。
3時限以内が良い	特に大きなメリットがみられないため。
	日頃運転をしていないとのことなので所内教習においては4時限でもどうかなあと思われませんが、路上については4時限の疲労を考えると現行で良いと思います。3時限か4時限は本人の運転の程度によるので全員が同じにするのが良いのか。

(6) 休憩時間の評価 (第1段階)

休憩時間は、45.8% (22人) が「4時限連続で良い」とする案を支持している。

図表2-2-10 休憩時間の評価 (第1段階)

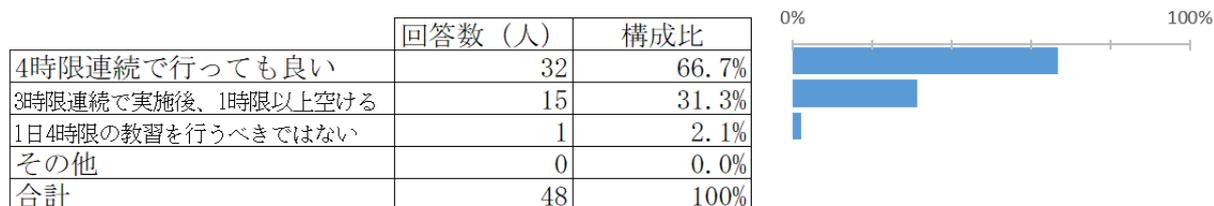


※金町自動車教習所では、第1段階の3時限目と4時限目で指導した教習指導員が異なっていることから、4時限目に指導した教習指導員のアンケート結果を反映した。

(7) 休憩時間の評価 (第2段階)

休憩時間は、第1段階よりも多い66.7% (32人) が「4時限連続で良い」とする案を支持している。

図表2-2-11 休憩時間の評価 (第2段階)



2-3 まとめ

本章では、実験教習に伴い収集した実験教習生アンケート、フリッカー検査結果、自覚症しらべ結果、指導員アンケートを集計分析した。

ここでは、そのまとめとして、上限時間数及び休憩時間についての2つの論点から調査結果を整理する。

2-3-1 1日の教習時間の上限について

上限時間数（第1段階：3時限、第2段階：3時限、1日合計3時限。以下同じ。）を、それぞれ1時限ずつ延長することについては、以下の調査結果であった。

上限時間数を現行の3時限とするか、1時限延長して4時限とするかについて、まずは教習効果の観点から評価する。実験教習生アンケートでは「4時限の方が効果的」及び「3時限以下でも4時限でも同じ程度」との回答が第1段階では85.4%（41人／48人）、第2段階では89.6%（43人／48人）であり、指導員アンケートでは94.7%（91人／96人）であった。また、1日4時限の教習を受講した感想は「1日4時限受講できてよかった」とする回答が第1段階・第2段階ともに85.4%（41人／48人）であり、実験教習において、通常教習として行ったと仮定して、履修成立と判断して教習原簿に押印等ができるかのアンケートでは、全ての教習（100.0%）で「履修できている」との結果であるなど、教習効果については肯定的な意見が大多数を占める結果となった。

また、疲労度の観点では、疲労度を計測するフリッカー検査において測定時期に伴う変動傾向が異なるものの、両群ともに平均値は正常範囲内に分布しており、自覚症しらべの疲労度合計点による評価でも、両群ともに平均値が最小値近くを分布するなど、大きな変動は見られなかった。

以上の結果から、上限時間数をそれぞれ1時限ずつ延長しても、教習効果への影響はないものと判断する。

2-3-2 休憩時間について

実験教習は、休憩時間の有無の差による影響を検討するため、技能教習の3時限目と4時限目の間に休憩時間を1時限入れた場合（A群）と休憩を入れずに4時限連続して教習を行う場合（B群）でそれぞれ実験教習を実施した。

疲労度を計測するフリッカー検査については、上記のとおり両群ともに平均値は正常範囲内に分布しており、自覚症しらべの疲労度合計点による評価でも、両群ともに平均値が最小値近くで分布するなど大きな変動は見られない。

また、自覚症しらべの疲労度合計点による評価では、特に第2段階において、B群の疲労度（平均値：1回目27.5、2回目28.2、3回目29.1）がA群の疲労度（平均値：1回目26.0、2回目26.3、3回目26.7）を上回る結果となった。

実験教習生アンケートでは、第1段階は、両群とも「4時限連続で行っても良い」との回答が最も多く、A群37.5%（9人／24人）、B群58.3%（14人／24人）となった。

第2段階については、「4時限連続で行っても良い」との回答がA群では41.7%（10人／24人）、B群では66.7%（16人／24人）となった。

教習指導員アンケートでは、第1段階、第2段階ともに「4時限連続で行っても良い」との意見が最も多く、第1段階45.8%（22人／48人）、第2段階66.7%（32人／48人）となった。

以上の結果から、実験教習生アンケート及び教習指導員アンケートにおける「4時限連続で行っても良い」との回答率は第1段階では4割、第2段階では6割程度であるものの、いずれにおいても同回答が最も多く、また、疲労度の観点でもフリッカー検査の平均値が正常範囲内を分布し、さらには自覚症しらべでも平均値が最小値近くで分布していることから、各段階において連続4時限の教習を可とすることが妥当であると判断する。

第3章 結論

3-1 1日の教習時間の上限について

当該教習に用いられる自動車を運転することができる第一種免許を現に受けている者であって、第二種免許の技能教習を受けるものに対する1日の上限時限数については、実験教習の結果、それぞれ1時限ずつ延長することが可能と考える。(第1段階：4時限、第2段階：4時限、1日合計4時限)。

3-2 休憩時間について

1日4時限の技能教習を行う場合には、教習における事故防止や教習効果の低下を防ぐ観点から、各教習生の希望や疲労度を踏まえながら教習を進める必要があるが、第二種免許を受けようとする者は、第一種免許の新規取得者と異なり、何らかの第一種免許の運転経験を有しているため運転に慣れており、さらにはフリッカー検査及び自覚症しらべによる結果からも休憩時間を入れなくても問題はないと考える。

資 料 編

普通第二種免許に係る教習の受講者アンケート
第一段階 受講者用

休憩有

問11 あなたが今回受講された技能教習は、1日に4時限分の内容を終了したこととなっています。

今回、実際に教習を受講されて時限数についてどのように感じましたか（1つに○）。

1. 多く感じたので、時限数を減らしてもよいと思う
2. 多く感じたが必要な技能を身につけるためには、必要と感じた
3. ちょうど良いと感じた
4. 少なく感じた

問12 現行では、1日に受講可能な技能教習の上限は3時限ですが、今回は試験的に技能教習を1日4時限実施しました。これによる教育効果の差異について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日3時限以下の方が、教育効果が高いと思う
2. 1日3時限以下でも1日4時限でも、教育効果は同じであると思う
3. 1日4時限の方が、教育効果が高いと思う
4. その他（ ）

問13 基本操作及び基本走行(第一段階)の技能教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、連続で行えるのは2時限までとされており、3時限連続で行うことはできません。1日の上限を4時限とした場合の空き時間について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行う事は良いが、2時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
4. 1日4時限の教習を行うべきではない
5. その他（ ）

問14 今回、技能教習を1日4時限受講して、あなたは疲れを感じましたか（1つに○）。

1. 全く問題ない
2. 多少疲れを感じたが、疲労は許容の範囲内である
3. 非常に疲れた
4. その他（ ）

問15 技能教習を1日4時限受講してみて、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日4時限受講できて良かった
2. 1日3時限以内の受講の方が良かった
3. その他（ ）

問16 あなたは、現在目の病気にかかっていますか。

1. 目の病気にはかかっていない
2. 目の病気にかかっている（病名： _____ ）

アンケートに記入頂いた内容は個人を特定できない形にして、他の方の結果とまとめて統計処理し、報告書として一般に公表します。自由記述欄の回答も記入された方を特定できないようにした上で、公表することがあります。

私は、アンケートのデータが、より良い教習を検討するために、研究責任者によって、研究のために利用されることに同意します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
署 名 _____

普通第二種免許に係る教習の受講者アンケート
第一段階 受講者用

休憩無

問11 あなたが今回受講された技能教習は、1日に4時限分の内容を終了したこととなっています。

今回、実際に教習を受講されて時限数についてどのように感じましたか（1つに○）。

1. 多く感じたので、時限数を減らしてもよいと思う
2. 多く感じたが必要な技能を身につけるためには、必要と感じた
3. ちょうど良いと感じた
4. 少なく感じた

問12 現行では、1日に受講可能な技能教習の上限は3時限ですが、今回は試験的に技能教習を1日4時限実施しました。これによる教育効果の差異について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日3時限以下の方が、教育効果が高いと思う
2. 1日3時限以下でも1日4時限でも、教育効果は同じであると思う
3. 1日4時限の方が、教育効果が高いと思う
4. その他（ ）

問13 基本操作及び基本走行(第一段階)の技能教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、連続で行えるのは2時限までとされており、3時限連続で行うことはできません。1日の上限を4時限とした場合の空き時間について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行う事は良いが、2時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
4. 1日4時限の教習を行うべきではない
5. その他（ ）

問14 今回、技能教習を1日4時限受講して、あなたは疲れを感じましたか（1つに○）。

1. 全く問題ない
2. 多少疲れを感じたが、疲労は許容の範囲内である
3. 非常に疲れた
4. その他（ ）

問15 技能教習を1日4時限受講してみて、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日4時限受講できて良かった
2. 1日3時限以内の受講の方が良かった
3. その他（ ）

問16 あなたは、現在目の病気にかかっていますか。

1. 目の病気にはかかっていない
2. 目の病気にかかっている（病名： _____ ）

アンケートに記入頂いた内容は個人を特定できない形にして、他の方の結果とまとめて統計処理し、報告書として一般に公表します。自由記述欄の回答も記入された方を特定できないようにした上で、公表することがあります。

私は、アンケートのデータが、より良い教習を検討するために、研究責任者によって、研究のために利用されることに同意します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
署名 _____

普通第二種免許に係る教習の受講者アンケート
第二段階 受講者用

休憩有

問11 あなたが今回受講された技能教習は、1日に4時限分の内容を終了したこととなっています。

今回、実際に教習を受講されて時限数についてどのように感じましたか（1つに○）。

1. 多く感じたので、時限数を減らしてもよいと思う
2. 多く感じたが必要な技能を身につけるためには、必要と感じた
3. ちょうど良いと感じた
4. 少なく感じた

問12 現行では、1日に受講可能な技能教習の上限は3時限ですが、今回は試験的に技能教習を1日4時限実施しました。これによる教育効果の差異について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日3時限以下の方が、教育効果が高いと思う
2. 1日3時限以下でも1日4時限でも、教育効果は同じであると思う
3. 1日4時限の方が、教育効果が高いと思う
4. その他（ ）

問13 応用走行(第二段階)の教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、3時限連続で行うことができますが、4時限連続した教習について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行うべきではない
4. その他（ ）

問14 今回、技能教習を1日4時限受講して、あなたは疲れを感じましたか（1つに○）。

1. 全く問題ない
2. 多少疲れを感じたが、疲労は許容の範囲内である
3. 非常に疲れた
4. その他（ ）

問15 技能教習を1日4時限受講してみて、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日4時限受講できて良かった
2. 1日3時限以内の受講の方が良かった
3. その他（ ）

問16 あなたは、現在目の病気にかかっていますか。

1. 目の病気にはかかっていない
2. 目の病気にかかっている（病名： _____）

アンケートに記入頂いた内容は個人を特定できない形にして、他の方の結果とまとめて統計処理し、報告書として一般に公表します。自由記述欄の回答も記入された方を特定できないようにした上で、公表することがあります。

私は、アンケートのデータが、より良い教習を検討するために、研究責任者によって、研究のために利用されることに同意します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
署名 _____

普通第二種免許に係る教習の受講者アンケート
第二段階 受講者用

休憩無

問11 あなたが今回受講された技能教習は、1日に4時限分の内容を終了したこととなっています。

今回、実際に教習を受講されて時限数についてどのように感じましたか（1つに○）。

1. 多く感じたので、時限数を減らしてもよいと思う
2. 多く感じたが必要な技能を身につけるためには、必要と感じた
3. ちょうど良いと感じた
4. 少なく感じた

問12 現行では、1日に受講可能な技能教習の上限は3時限ですが、今回は試験的に技能教習を1日4時限実施しました。これによる教育効果の差異について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日3時限以下の方が、教育効果が高いと思う
2. 1日3時限以下でも1日4時限でも、教育効果は同じであると思う
3. 1日4時限の方が、教育効果が高いと思う
4. その他（ ）

問13 応用走行(第二段階)の教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、3時限連続で行うことができますが、4時限連続した教習について、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行うべきではない
4. その他（ ）

問14 今回、技能教習を1日4時限受講して、あなたは疲れを感じましたか（1つに○）。

1. 全く問題ない
2. 多少疲れを感じたが、疲労は許容の範囲内である
3. 非常に疲れた
4. その他（ ）

問15 技能教習を1日4時限受講してみて、あなたはどのように思いますか（1つに○）。

1. 1日4時限受講できて良かった
2. 1日3時限以内の受講の方が良かった
3. その他（ ）

問16 あなたは、現在目の病気にかかっていますか。

1. 目の病気にはかかっていない
2. 目の病気にかかっている（病名： _____）

アンケートに記入頂いた内容は個人を特定できない形にして、他の方の結果とまとめて統計処理し、報告書として一般に公表します。自由記述欄の回答も記入された方を特定できないようにした上で、公表することがあります。

私は、アンケートのデータが、より良い教習を検討するために、研究責任者によって、研究のために利用されることに同意します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
署名 _____

普通第二種免許に係る教習の指導者アンケート
第一段階 指導者用

休憩有

普通第二種免許に係る教習の指導者アンケート
第一段階 指導者用

休憩無

普通第二種免許に係る教習の指導者アンケート
第二段階 指導者用

休憩有

問7 応用走行(第二段階)の教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、3時限連続で行うことができますが、4時限連続した教習について、あなたはどのように思いますか(1つに○)。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行うべきではない
4. その他 ()

普通第二種免許に係る教習の指導者アンケート
第二段階 指導者用

休憩無

問7 応用走行(第二段階)の教習スケジュールについてお尋ねします。現行では、3時限連続で行うことができますが、4時限連続した教習について、あなたはどのように思いますか(1つに○)。

1. 4時限連続で行っても良い
2. 1日4時限の教習を行う事は良いが、3時限連続で実施後、1時限以上空けて再度教習を実施する方が良い
3. 1日4時限の教習を行うべきではない
4. その他 ()

自覚症しらべの使い方

「自覚症しらべ」を利用される際には、つぎのことに気をつけながらご使用ください。

1) 本調査票は、作業に伴う疲労状況の経時的変化をとらえることを目的としています。したがって、調査は作業の進行に伴って繰り返し行ってください。調査時点は、原則として1時間間隔で行うこととし、最小限の測定点として、作業開始時、昼休みなどの大休憩の前と、大休憩後、定時の終了時、残業があるときは超過勤務終了時に実施することとします。

2) 測定前の作業状況・内容を把握し、調査票データとリンクしてください。

3) 本調査票は5つの群別に評価できますが、群別比較の前に、各設問項目おのをおのを観察し、評価しておいてください。その後、以下の5つの群別に合計スコア(またはそれを5で除した平均値)を求め、群別に疲労状況の評価してください。

群 ねむけ感： ねむい、横になりたい、あくびがでる、やる気がとぼしい、全身がだるい

群 不安定感： 不安な感じがする、ゆううつな気分だ、おちつかない気分だ、いらいらする、考えがまとまりにくい

群 不快感： 頭がいたい、頭がおもい、気分がわるい、頭がぼんやりする、めまいがする

群 だるさ感： 腕がだるい、腰がいたい、手や指がいたい、足がだるい、肩がこる

群 ぼやけ感： 目がしょぼつく、目がつかれる、目がいたい、目がかわく、ものがぼやける

4) 本調査票は自由にご活用ください。

自覚症しらべ

No.

氏名 _____ (男・女 _____ 歳)

記入日・時刻 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 _____ 分記入

いまのあなたの状態についてお聞きします。 つぎのようなことについて、どの程度あてはまりますか。すべての項目について、1「まったくあてはまらない」～ 5「非常によくあてはまる」までの5段階のうち、あてはまる番号1つに をつけてください。

	まったくあてはまらない	わずかにあてはまる	すこしあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる
1 頭がおもい	1	2	3	4	5
2 いらいらする	1	2	3	4	5
3 目がかわく	1	2	3	4	5
4 気分がわるい	1	2	3	4	5
5 おちつかない気分だ	1	2	3	4	5
6 頭がいたい	1	2	3	4	5
7 目がいたい	1	2	3	4	5
8 肩がこる	1	2	3	4	5
9 頭がぼんやりする	1	2	3	4	5
10 あくびがでる	1	2	3	4	5
11 手や指がいたい	1	2	3	4	5
12 めまいがする	1	2	3	4	5
13 ねむい	1	2	3	4	5
14 やる気がとぼしい	1	2	3	4	5
15 不安な感じがする	1	2	3	4	5
16 ものがぼやける	1	2	3	4	5
17 全身がだるい	1	2	3	4	5
18 ゆうつな気分だ	1	2	3	4	5
19 腕がだるい	1	2	3	4	5
20 考えがまとまりにくい	1	2	3	4	5
21 横になりたい	1	2	3	4	5
22 目がつかれる	1	2	3	4	5
23 腰がいたい	1	2	3	4	5
24 目がしょぼつく	1	2	3	4	5
25 足がだるい	1	2	3	4	5

前日の睡眠時間 () 時間

フリッカー値 1回目 () 2回目 () 3回目 ()